

# 岡山県詩人協会だより

発行 岡山県詩人協会  
 会長 上岡 弓人  
 編集 柏原 康弘  
 小山 淳志

## 詩の朗読会 No.16 聞いてください 岡山の現代詩

### 異なる世代 一堂に朗々と

16回目となる詩の朗読会「聞いてください 岡山の現代詩」(岡山県詩人協会、県、県文化連盟、おかやま県民文化祭実行委員会主催)が11月18日、岡山市北区のピュアリティまきびで開催されました。小中高校生と詩人協会会員計19人



自作詩を、心を込めて朗読する出場者

が自作詩を朗読。真冬の寒気に覆われた一日でしたが、出場者を含め65人の参加を得て盛況となりました。

第21回「おかやま県民文化祭「君たちの未来へ!プログラム」の一環。県詩人協会の上岡弓人会長が挨拶の中で、アメリカの大統領就任式において詩人アマンダ・ゴーマンさんが朗読した「詩は人と人を隔てる壁の言葉ではなく、人と人を繋ぐ橋の言葉なのだ」という印象的な一節を紹介。日本でも詩の朗読が、文化として定着することを願いました。県文化



挨拶する上 岡会長

連盟の中西健専務理事による祝辞もありました。

小学生は、岡山県内各賞

の入賞者から選ばれただけあり、自信をもった朗々とした発表でした。練習の跡がうかがわれ、声量だけでなく声の抑揚間の取り方など素晴らしいものでした。岡山の詩の未来に期待を抱かせるもので、会場からも惜しみない拍手が送られました。



中学、高校生の朗読詩は、思考の深まりや視野の広がりが感じられました。どの学年であれ、今しか書けない詩があり、表現する楽しさに触れることができたものと確信しています。

詩人協会会員は6人が、『岡山県詩集2023』掲載の自作詩を朗読し、言葉に込めた思いを話しました。県内には個人的で力量のある詩人が多く、それを立証するような発表となりました。



この朗読会は、

詩で結ばれた異なる世代が一堂に会する、得がたい機会。コロナ禍での規制は全面解除され、伝えたいという熱気が会場に充満しました。今後も長く継続できるように精進したいとの決意を新たにしました。

朗読の合間には、音楽家赤田晃一、美由紀夫妻のユニットが、サククスと電子ピアノを演奏。楽しいひと時となりました。どの音・言葉をどこに当てはめるかという点において、ジャズのインプロヴ



イゼーション(即興演奏)は詩に似ていると、改めて思われました。ジャジーな音楽に包まれ、身も心も温まった時間となりました。(田中淳一)

朗読は次の皆さん。(敬称略)

- ▽小中学生 〓高梁市立落合小1年・うじひらゆうま、岡山市立津島小2年・ありもりたける、倉敷市立葦高小3年・高木瑛士、笠岡市立城見小4年・渡邊心彩、朝日塾小5年・秀平亜理沙、岡山市立西小6年・藤原麻衣、笠岡市立新吉中1年・藤井彩乃、矢掛町立矢掛中2年・元岡歩夢、玉野市立荘内中3年・大下真椰(小中学生の学年は昨年度)▽高校生 〓県立倉敷古城池高1年・大石姫菜、同2年・藤岡はな、同3年・西崎琥珀、福岡和磨
- ▽県詩人協会会員 〓下田チマリ、田尻文子、田邊亜実里、ひとはなお、増成順子、小野田潮

# 詩への思い ① 岡隆夫

## 創作に終着点なし

### 大切な3つのこと

現在85歳になり、振り返ると65年間詩を書きつづけてきました。目下24冊目の詩集を出したく、頑張っています。これが最後となるでしょう。世の大詩人たちは、初期は習作に近いものから始まり次第に腕をあげてきたと思います。そんなことを考えながら、がむしゃらに書きつづけてきました。

現代詩の領域は、敗戦後大きくその幅を広げてきました。そのことを詳述しますと際限なく膨大なものになりますので、ここでは次の3点に絞って私見を述べることにしましょう。

- 1、詩作に専念すること。
- 2、詩にまつわる評論、エッセイ、翻訳等。
- 3、詩に関する組織、各種のグループ活動。

詩を作ることは大変な仕事であり、そのジャンルは多岐にわたり、かつこれ

完成といえるものはないでしょう。芸術

における最終点はないでしょう。だから詩人は終生詩を書きつづけることにな

ります。上質の作品は一朝一夕に出来るものはないでしょう。モーツァルトのような最上級の作品がいくらでも降って湧きでるような天才はまずいないでしょう。天与の才がある詩人としてはエミ

リー・デイキンソンが挙げられます。トマス・ハーデイは十数冊の小説を書き上げた後、晩年30年間作詩に専念した努力の詩人・小説家です。振り返って不肖岡



隆夫はなまけ者です。

2つ目の評論・エッセイ等は どうしても関わる仕事

であり、作詩にはとても役立つもので評論については、わたしは前述二者に関するものは40点余あり、デイキンソンについては博士論文にまとめました。惜しむらくは、日本の詩人たちのそれがないのは残念です。

3つ目の詩のグループ活動については、自分でも人並み以上によくやってきましたと自負しています。いくつかの同人としての活動をし、詩誌「詩脈」では創設から終刊まで30年間余、百号まで出しましたが、凡庸なものでした。もっと充実

した活動を目指すべく、「中四国詩人会」の創設に尽力し、現在20年余活動をつづけ、同会ニューズレター53号を発行。学会では1980年に「日本エミリー・デイキンソン学会」(現37回大会)を設立し、さらなる発展を期待しているところ

### おかやま文学フェス2024

#### 第9回詩を楽しむ会のご案内

「竹久夢二の詩 砂がきの哀しみ」

日時 3月10日(日) 14~16時

場所 オリエント美術館地下講堂

申し込み はがきで事務局(宛先は4頁参照、当日参加可)

参加費 500円(当日持参)

\*詳細はチラシをご覧ください。

#### トークイベント

「美しい詩をあなたに」

日時 3月10日11時~11時50分

場所 岡山文芸小学校(旧内山下小)

内容 県内主要詩誌の同人による自作詩朗読、詩誌紹介。(無料)

です。中央詩壇では2つの大きな団体の会員として、近隣では詩誌「どうるかまら」等に所属し、細々と詩を書いていきます。以上、おこがましい愚感を述べました

が、2項目の評論等はできるだけ控え、3項目の活動は、老齢による心身の衰弱により止むを得ず、1項の詩作にのみ絞らざるを得ないのが実情です。

諸賢のみなさんに申し上げることは失礼ですが、第1項に主眼をおかれ、他の2項をバランスよく取り入れられますようお願いしています。当岡山県詩人協会のさらなるご発展を祈っています。

おか・たかお 1938年生まれ。共編著『岡山の詩100年』で第2回福武(現ベネッセ)文化賞を受けたのはじめ、第3回岡山県芸術文化賞グランプリ、第49回農民文学賞、第50回日本詩人クラブ賞、第76回山陽新聞賞など受賞。2022年、中四国詩人会より感謝状を授与される。本名・古川隆夫。浅口市在住。

協会だより第40号から、新企画として「詩への思い」を掲載します。県詩人協会で長く活躍されてきた詩人に、向き合ってきた詩への熱い思いや後輩詩人へのメッセージなどを書いていただきます。詩論、思い出を含め、詩に関することであればテーマは自由とします。ご期待下さい。



(イラストは瀬崎 祐さん)

## 第19回日本詩歌句随筆評論大賞に 瀬崎さん『水分れ、そして…』

### 「私」をも客体化して見る

瀬崎祐氏の詩集が日本詩歌句随筆評論大賞の、詩部門大賞を受賞との朗報、心より、お祝い申し上げます。



受賞対象となった詩集『水分れ、そして水隠れ』（思潮社、2022年7月出版）は落ち着いた装幀で、頁幅が若干狭く、本は背高。スマートなスタイル、オシャレな装幀の中に収まる散文詩が22編。いずれの作品にも真摯で落ち着いた姿勢が見られる。死すべき存在

としての自己を見つめる真摯さが22編の通奏低音となつている。ターミナルに向かう覚悟を奥に秘めた眼差しである。世界認識でもっとも重要な役割をになうのは「見る」ことだろう。理論という語は観想を意味するギリシア語、theoriaに由来する。アリストテレスでは「観想」生活が人間の最高のあり方とされる。ところが「いま眼前にひろがっている風景はただ見えているだけでそこには未だなんの意味もない（捨つ男）」。網膜を通して意識にプレゼント

された現象としての見えがあるだけで、そこには見る「私」さえもないのかもしれない。「私」が見るものは世界のなかにある。「私」は「私」をも世界にあるものとして見る。「私」を詩人は客体化し、客体化された「私」を、他人の「私」をも含め、「眼球」と呼ぶ。だが人は生々しい眼球としてばかり生きるわけではない。眼球はむしろ「私」の出つ張りで、脳とおなじく身体の器官である。諸器官の連携的働きの奥に「仮初め」とはいえ、「私」がある。「私」は對他存在として自らを装わなければならぬ。

「今日も雑踏のなかを仮初めのわたしが行っていく。そして仮初めの顔をした人々とすれ違ふ。しかし、本当の顔の型をとった店はどこにあったのだろうか。仮初めのわたしにはすでに思いつけないものになっている（「仮初めのわたしが行っていく」）。「私」の歩の終末には謂わば（放下）が訪れる。「焼きついてきた風景の角はとれていく。ものごとの輪郭はあいまいになり。なごやかなものへと変わっていく。棄てられて。責められることから解きはなされた風景だ（湖のほとりで）」。

（北岡武司）

せきぎ・ゆう 1947年生まれ。詩集は『窓都市、水の在りか』など多数。「どうるかまら」など所属。倉敷市在住。

## 第23回中四国詩人賞に 中尾さん『猫町diary』

### 慈しみと温かい眼差し



くる優しさが読後感をスツキリと温かく満たしてくれます。

この詩集は、3章27編の作品で構成されています。1連が5行前後の行数一編が5連から7連で構成されるといふスタイルは、一つの作品を除いて一貫して、詩人にとっては「定型」と呼ぶべきものと思われまふ。その定型が一定のリズムを生んでいます。

詩集のタイトルのおり多くの作品に猫が姿を見せますが、その猫はニンゲンの日常生活に侵入してその秩序を掻き乱す“トリックスター”ではなく、高

みからニンゲンを冷笑する。哲学者”でも“皮肉屋”でもない、その動作や姿態が詩人を思索へと誘うごく近しい存在として描かれます。

3章から構成される作品群ですが、第1章で見られた穏やかでゆつたりとした日差しに包まれていた日常が、第2章から巻末に至る作品では後景に退き、入れ替わるように翳りが次第に濃くなってくるようです。弛緩と緊張、平穏と不穏が綯い交ぜになりながら詩人の身辺に近づいてきます。詩人にとって大切なものの喪失を受け入れるまでの心理的な葛藤が待ち受けています。

巻末に置かれた「明日の空」から第1連と最終連を引きます。

死者は／いつも懐かしく温かい／突然に僕の前から姿を消した人も／ゆつくりとあちらへの階段を登った人も／（5連を省略）／生きていくことは／上手くないことも多いが／明日の空を見上げて／一歩を始めるこの最終連によって、この詩集に収められた作品群は一つの円環を描き終え、読者は再びはじめの頁を開きたいと思うのではないのでしょうか。（大塚政樹）  
なかお・いちろう 1957年生まれ。詩集はほかに『洪水の夢』。ネビュラ所属。岡山市北区在住。

会員の新詩書紹介

壺阪輝代詩集『吉備の鬼』 日本文教出版(11月)

同エッセイ集『心のあり処』 日本文教出版(11月)

則武一女詩集『先生の手料理』 土曜美術社出版販売(12月)

会員消息(9~12月)

9月

◆4、7日 学校出前講座(岡山市立螢明小学校) 講師:中尾一郎

◆6日 夏の終わりの歌曲の夕べ(川崎市・ミューザ川崎) 歌曲への詩の提供と朗読:石川早苗

◆18日 第19回日本詩歌句協会授賞式(東京都) 詩部門大賞:瀬崎祐

◆30日 第13回「風の唄」朗読会(岡山市立オリエント美術館地下講堂) 朗読:下田チマリ、中川貴夫 音響:野瀬秀隆

▽高校生文芸道場(岡山市・就実大学) 詩部門講師:斎藤恵子

10月

◆21日 永瀬清子生家保存会夜の詩作講座(赤磐市・同生家) 講師:斎藤恵子  
▽中四国詩人会総会(広島市) 第23回中四国詩人賞:中尾一郎

11月

◆3日 ワークショップ「雨ニモマケズ

く読み解きと群読」(総社市・まちなか美術館) 案内人:石川早苗

◆22日 第58回岡山県文学選奨 現代詩部門佳作:神崎良造

12月

◆10日 火片出版記念会(岡山市・寿司割烹「喜怒哀楽」) 則武一女詩集

新入会員の紹介



田中かずまささん 倉敷市在住

小生なになにについても微力でございませぬ。日日の生活、毎日が人間形成の修行中におります。諸先生方のご指導を、お願い申し上げます。



光枝 初郎さん 倉敷市在住

個人で電子詩集を出した以外に実績のひとつありませんが、皆様の背中を追いかけつつ読み、書き、詩と寄り添っていきたくと思います。本名:光枝直紀。

本間 宏樹さん 赤磐市在住

(再入会、詩誌「黄蘗微」所属)

第5回文学散歩 良寛さんの玉島と泣菫の水島を歩く

- ・日時 4月6日(土) 9~16時
- ・行き先 倉敷市玉島地区の歴史的町並み、円通寺、薄田泣菫生家
- ・集合 午前8時50分、JR岡山駅西口高速バス待合室
- ・会費 5千円(予定)

※詳細はチラシをご覧ください。

本の寄贈

(感謝)

- ・群馬年刊詩集2023 群馬県詩人クラブ
- ・2023年版北海道詩集No.70 北海道詩人協会
- ・プリズム8号 プリズムの会
- ・年刊詩集ふくい2023 (第39集) 福井県詩人懇話会
- ・千葉県詩集第56集 2023年版 千葉県詩人クラブ
- ・2023年版中日詩人集63 中日詩人会
- ・「樹林」板橋区民詩集第37集 板橋区詩人連盟
- ・いわての詩2023 岩手県詩人クラブ
- ・栃木県現代詩年鑑2023年版 栃木

県現代詩人会

・詩界論叢2023 第1集/創刊号

日本詩人クラブ

・宮城の現代詩2023 宮城県詩人会

お知らせ

第5回紅梅忌 2月17日、赤磐市松木の「清子の家」。問い合わせは永瀬清子生家保存会(070-3783-0217)。  
第7回永瀬清子現代詩賞募集 2月17日~5月17日。問い合わせは同保存会。

【後記】

○新企画で「詩への思い」を始めました。テーマは自由なのですが、個人的には、忘れられそうな昔話を一番に語ってもらいたい。楽しみにしています。(柏原)  
○事務局を仰せつかり、朗読会が無事に終わりホッとしています。日常に戻るとコロナの時には無かった多くのものが押し寄せ、目が回りそうです。心して歩みたいものです。(小山)

岡山県詩人協会事務局

〒701-4276

瀬戸内市長船町服部502-3

小山淳志方

☎070(5427)6270

✉ heita@js6.so-net.ne.jp